

3月8日にワイエス展が終わり、次のアヴァンギャルド・チャイナ展が始まる4月3日まで、企画展はしばらくお休みです（22日まで所蔵作品展だけは開いていますヨ）。

観覧会をしていない企画展示室の中はいったいどうなっているのでしょうか。閉ざされた扉の向こうでは、チャイナ展の準備が着々と進んでいるのです。

チャイナ展は22日まで大阪の国立国際美術館で開催中なので、それが終わって作品が愛知県美術館に入ってくるまでに準備できることはしておかないといけません。できることは展示室内のディスプレイ工事です。絵を飾る壁を作ったり、映像を映す個室（ブース）を作ったりしています。



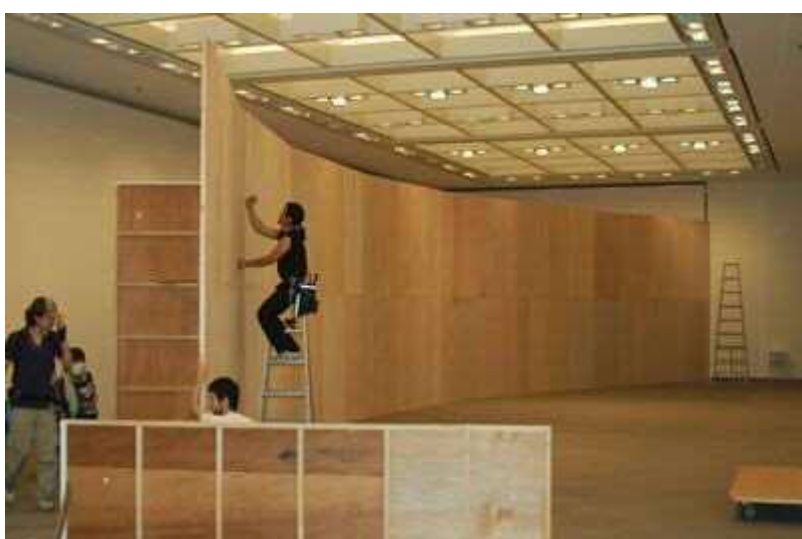
↑ 壁を立てる位置を計測



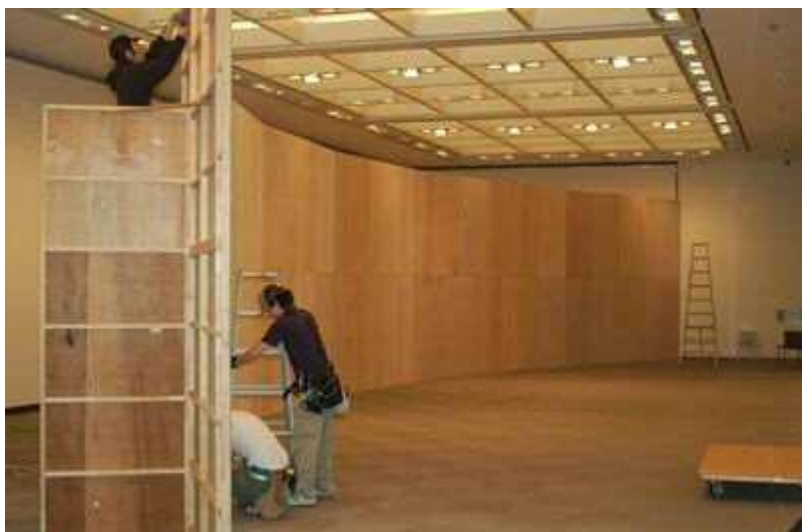
↑ 壁になるパネルをつなげていく



↑半分くらい立ったところ



↑つなぎ目を合わせる



↑ パネル同士を留めてほぼ完成



↑ 目地にトノコを塗って経師の準備。プロジェクターを付ける台も取り付け完了

写真は、がらんとした展示室に楊福東（ヤン・フードン）の作品を映すための幅3メートルの壁8面を円弧状に立てていく様子です。東京では使ったけれど大阪では使わなかったプロジェクター用の台だけが先に届いたので、壁に取り付けました。あとは壁紙を貼れば受け入れ準備の完了です。

壁の裏の空間はどうするのかって？ やはり気になりますか。映像機器が入っていた箱などを収納する倉庫として使います。

（H.F）